

令和3年度 第1回 宇部市地域自立支援協議会 会議録

日 時:令和3年8月5日(木) 18:00~19:30

場 所:宇部市総合福祉会館 2階 ボランティア交流ホール(大)

出席者:委員 13名(出席委員のうち Web での参加3名)(欠席者5名)

委員 土屋会長、溝田副会長、安光委員、枝村委員、錦谷委員、縄田委員、
村上委員、赤川委員、森尾委員、墨田委員、徳永委員、井上委員、藤井委員

市 健康福祉部 佐々木部長

障害福祉課 井上課長、塚本副課長、芝田係長、上田係長、深津係長、
實安主査

地域福祉・指導監査課 江本主幹、宮原係長

宇部市社会福祉協議会 藤笠課長、島田係長

1 報告

(1) 令和2年度実績報告

① 相談支援事業の実績報告(資料1-1)

- ・発達障害等相談センター運営事業(資料1-2)
- ・ひきこもり相談支援充実事業(資料1-3)

② 障害者虐待防止法における相談件数等の報告(資料2)

■質疑応答等

- ・ペアレントトレーニングとは、子育てに取り組む親と子供を支援すること。
- ・WRAPとは、Wellness(元気)・Recovery(回復)・Action(行動)・Plan(プラン)の頭文字を取って「WRAP(ラップ)」。精神的な病を抱えつつも元気で生活をしている人たちに共通してみられていた意識の向けどころ「リカバリーのキーコンセプト(リカバリーに大切な5つのこと)」と、「元気に役立つ道具箱(生活の工夫)」をいつでも使えるようにする仕組み。
- ・UFE(ウッフエ)の正式名称については、確認して後日回答する。
- ・虐待については、民生委員の耳には入らず表に出てこないのが現状。

(2) 障害者等地域支援ブロック会議等の報告(資料3)

(3) 「宇部市障害福祉サービス計画(第5期宇部市障害福祉計画及び第1期宇部市障害児福祉計画)」に係る実績報告(資料4)

■質疑応答等

- ・障害福祉サービスを支える人材を養成する必要がある。
- ・ボランティアグループも高齢化している。
- ・コロナウイルスにより利用者は感染をおそれ利用を控え、事業者は人を集めて事業をすることに慎重になったため、実績が減少した障害福祉サービスがある。また、通所事業所等で在宅での支援が認められたため、対応が可能な事業所は切り替えて実施したところもある。
- ・同行援護については、障害者や事業者が活動を控えたため実績が大きく減った。

4 議事

(1) 今年度に重点的に取り組む地域課題について (資料5)

① 障害者の就労について

■質疑応答等

- ・施設外就労で、就労の場所のとなる会社からコロナウイルスにより休んでくださいと言われるが、もっと働きたいという障害者もいる。
- ・ブロック会議は日中行われるため、就労の事業所は参加が難しい。
- ・障害者手帳がない人は、診断書が必要だが、医師につなげることが難しい。

② 精神科病院からの地域移行

■質疑応答等

- ・グループホームに入居するには、その事業所で日中サービスを利用しないと入居できないと言われたケースがある。
- ・自分で選んで障害福祉サービスを利用するのであればよいが、選べないのは問題がある。
- ・市の監査などで実態を把握し、情報があれば情報を提供していく。
- ・病院から退院するために障害福祉施設などの見学する機会がコロナウイルスの関係で減っている。患者が目で見えて納得できるようにしていきたい。

③ 障害福祉サービスから介護保険サービスへの移行

■質疑応答等

- ・8050問題では、障害のあるお子さんがいる親は、親がいる間は、家でがんばりたいという思いが強く、施設入所をしたくない人が増えている。今後のことについて説明しても、なかなか理解してもらえない。

④ 親亡き後の課題

■質疑応答等

- ・成年後見人として働いているが、お金がかかるのではなど言われて進めるのが難しい。
- ・後見人の制度が広まっているため、銀行などで行う手続きも時間が短くなってきている。

5 その他

(1) なんでも相談窓口について (資料6)

(2) 宇部市成年後見センターについて (資料7)

■総括

- ・障害者差別解消法が改正され、合理的配慮が民間事業者は今まで努力義務となっていたが、改正後は義務となった。(施行期日は公布日(令和3年6月4日)から起算して3年以内。)
- ・視覚に障害のある人について、新型コロナワクチン接種や特別定額給付金のお知らせを本人が希望する方法で情報を得られるよう配慮があった。